

施策パッケージ名	ICT 国際連携推進研究開発プログラム
担当府省	総務省
施策パッケージの目標	外国政府との協力関係を構築し、研究開発の初期段階から国際標準化や実用化等の出口を見据えた国際共同研究を進めるとともに、それら研究成果を順次テストベッド（JGN-X）等を活用して国際的に実証・評価し、2015年頃までに日本が強みを有する新たなネットワークの基本技術に目途をつけるとともに国際標準化に取り組む。2020年頃までに ICT の国際競争力を左右するネットワーク技術を国際標準技術として確立し、成果のグローバル展開を行うことにより、我が国の ICT 産業競争力の強化に貢献する。
予算要求額等の合計	平成 24 年度 約 37 億円（平成 23 年度 約 33 億円※） ※継続施策のみの合計
実施期間	平成 23 年度～平成 27 年度
<p><b>【全体講評】</b></p> <p>○施策パッケージ「ICT 国際連携推進研究開発プログラム」は、将来のネットワーク技術の国際化を目的に研究開発施策と国際人材交流、成果の実証・普及展開等を促進するための行政施策が連結されており、施策パッケージとして施策間の連携による相乗効果が期待される。更に、イノベーションを生み出すために研究開発及び実証・成果展開等を一貫して実施できる「場」を国際共同で設けるという視点は適切であり、平成 24 年度からは欧州と具体的な連携の枠組みの検討が開始されている。施策パッケージとしての目標設定に関しては、国際標準化だけでなく、新世代ネットワークの普及展開及び我が国ビジネスのグローバル展開に繋げていくことが明記されており適切である。以上のことから、本施策パッケージは、その目的・目標、アプローチが適切に提案されていることから、重点施策パッケージとして、資源配分の重点化を行うべき対象と認められる。</p> <p><b>【目的・目標について】</b></p> <p>○ 今後、国際共同研究の具体的分野を設定する際に、施策の目標をより具体化して推進することを期待する。</p> <p>○ 本施策パッケージの目的を達成するという観点から、戦略的にテストベッド（JGN-X）の利用メリットをより明確にして、産業界等の利用を一層促進することが重要である。</p> <p>○ 国際交流するだけでなく、日本の強みを伸ばすための仕組みを取り入れた上で推進することが、目標達成には必要である。そのため、10 年後を見据えて、新世代ネットワークの普及展開及び、この分野の我が国ビジネスのグローバル展開に係るビジョンを明確にした上で、標準化については、可能な部分から随時前倒しで進めていくことが必要である。</p>	

#### 【アプローチについて】

- 産業展開への筋道も明確にしつつ、特に日本が強みを有する技術について、諸外国に主導権を握られないよう注意しながら推進すべきである。
- 今後、国際連携の「場」を設定するだけでなく、優秀な人材が集まるような具体的な工夫が必要である。また、世界的なマーケットを押さえる上でアジアの社会インフラ提供の中心的な役割を担うことも重要であることから、アジア諸国を含め、諸外国との戦略的な連携も視野に入れ、連携先を増やしていくことも検討すべきである。
- テストベッド（JGN-X）は国際的実証・評価を促進するため重要なインフラであり、新世代ネットワークを想定した多様なアプリケーションの実証等に対応できるようミドルウェアのソフトを用意していることは的確である。今後とも、産業界等の利用者視点でその利用促進を図るとともに、テストベッドの国際連携を一層強化することが重要である。

#### 【実施体制について】

- 産官学の連携については、今までにも、これまでのテストベッド（JGN-2、JGN-2plus）で成果を上げ、着実に推進してきた実績があることを踏まえ、本施策パッケージの推進においても、国際動向に注視しながら、より一層柔軟なマネジメントを探るべきである。
- 本施策パッケージの個別施策間の連携、国際標準化への戦略的対応などを円滑に推進するため、総務省本省及び情報通信研究機構（NICT）におけるマネジメントに係る体制を明確にして推進することが必要である。